

競争というルールと世界経済

令和6年1月24日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

競争は資本の集約における経済の格差という現実を自己とする。これは資本主義というルールにおける経済という現実である。

経済は金融資本の支配を基盤に、技術進歩における現実の創造という現実が経済の現実なのである。

これらが自由経済システムと資本主義という経済であり、これらルールは経済における競争を自己とし、その進歩が現実の向上なのである。

これらが時代性においてその自己プレゼンスの拡大を技術革命において有し、新しい社会と世界における現実への提案を模索しているのである。

これらは資本力という富が、新しいエリートたちの現実を創造し、それらへの追従が現実の形成を与えるのである。

これらは既存倫理価値観の崩壊であり、欲望という新しいルールが存在するのである。

これら新しい経済システムは、企業における新しい自己ルールを提案するものである。グローバル化はこれらの統一を有する。

競争は、必ず格差を与えるのである。これらは、生態系が、生存競争であり、これらの霊長が、経済における競争原理なのである。

経済は競争とともに進歩を行う。これらは技術革新と、優れた生活環境社会の創造である。これらは自由経済という現実における真実なのである。

しかし社会学における社会の正しい進歩性という理解を基盤とするとき、これらが矛盾を得ることは存在するのである。これらは経済が倫理的自己を有し、それら自由経済システムのもと、未来の創造へ参加することは、それらが社会責任とともにした自己として可能なのである。